

保全協会報「ぎふ環境保全」編集委員

委員長 石原 幸喜

副委員長 濱岡 直彦

石田 謙治 各務 剛児 川合 雅和 小塚 将樹

藤沢 茂 伏見 典郎

編集後記

海や山の恋しい季節になりましたが、皆様いかがおすごでしょうか。

この編集後記も執筆に長年携わっておられた先輩に替わり、編集委員が交代で執筆するようになって3回目となります。石原委員長が、1月に「関ヶ原の戦い」について書かれました。丁度ある会の初詣で南宮人社、多賀人社に参拝し、その帰りに関ヶ原町歴史民俗資料館に立ち寄り、館長さんより関ヶ原の戦いの説明を受けたばかりでしたので鮮明に覚えています。

東軍徳川勢が不利な配置の中、圧倒的な大勝利となった要因は、一番に西軍の小早川秀秋ら数々の武將を事前に東軍に寝返るよう調略していたこと。

また、徳川勢の調略により動かない人名が続出したことであると考えられます。これは、今の時代でもいえることで、「段取り八分仕事二分」という言葉がありますが、まさにこの時代からそうであったということが伺われます。

話は変わりますが、今の日本を象徴するような言葉があります。「築城十年、落城一日」、日本を代表するような企業の不祥事が昨今起こっています。ひとたび発覚すれば、長年の利益を帳消しにする損害が生じるどころか、時として市場から退場を強いられるにもかかわらず、不祥事が依然として繰り返されています。企業不祥事も様々ですが、トップ自身があからさまに違法行為を指示する例は、稀です。むしろトップは、ルールを守ることは当然の前提としつつも、それ以上踏み込まないことが多く。一方で、部下に業績や研究開発の成果を求めることが一番の原因だと考えられます。「ものづくり大国日本」を取り巻く社会情勢が変化し、成果第一主義になってしまったことが、このように不祥事が頻繁に起こることになった原因ではないでしょうか。

私たち編集委員を始め岐阜県産業環境保全協会の会員各位におかれましても、ルールを守り、日々コツコツと努力して、不祥事を起こさないよう協会設立30周年の節目の年を迎えていきたいと思っています。

記 K. H

平成30年7月15日発行 第115号

編集発行 一般社団法人岐阜県産業環境保全協会

理事長 粥川 長司

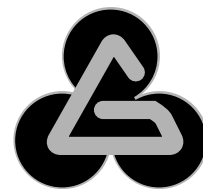
〒500-8384 岐阜市葦田南1丁目11番12号 岐阜県水産会館1階

TEL<058>272-9293 FAX<058>272-6764

<http://www.gifu-hozen.jp>

E-mail info@gifu-hozen.jp

印刷 共和印刷株式会社



協会のシンボルマーク